

ラリーオビディエンスについて

ラリーオビディエンスは、アメリカのチャールズ・クレーマーさんが発案、今現在ヨーロッパに渡り人気上昇中の新しいドッグスポーツです。

目的

このドッグスポーツの良い所は、初めから終わりまで指導者と愛犬がコミュニケーションをとり続けることが可能なため、多くの犬が参加出来る様に作られています。

楽しく達成感が得られ、これから競技会に参加する初歩犬、今現在の競技に飽きた犬、そして課目が難しいと思われる人に向けての競技である。

特に高齢犬にとってQOL（クオリティー オブ ライフ）を低下させないためにも有効と思います。

競技内容

- * 10～20ヶ所のステーションに表示プレートがあり、そのプレートに指示が書いてある。
- * 指導者は競技前にステーションの番号とプレートに書いてある服従の課目を順に覚えませす。
- * 指導者は犬を脚側に付け、コースを歩きエクササイズをこなします。
- * 犬にコミュニケーションをとるため、褒める、励ますための声符や身振りができる。
- * 犬は最低9カ月と1日以上（ビギナークラス・クラス1のみ）で参加できる。
- * 紐付き、紐なしを指導者が決める事が出来る（クラス2・3は紐無し）。
- * タイムリミットは4分。
- * ビギナークラス、クラス1では、コースの途中で犬におやつをあげても少し触っても構わないニコニコマークがある（止まって指示する課目のみ）。
- * おやつは手に持ったままでなく、犬の反対側のポケットに入れ、課目が出来た後、手からあたえる。
- * ごほうびを持って入る場合、事前に審査員に申告する。
- * 審査員がスタートの指示後、指導者は常歩で始め、最後まで自分の判断で行う。
- * 競技中に褒めることを許す代わりに体罰、リードでの強いショック、厳しい指示、キツイ命令（言い方）は禁止。
- * 命令は声符、指符、体符、同時なら使っていい。
- * コースには、座れ、伏せ、立ってなど、又、1カ所に混ざった指示、方向転換（90度、180度、270度、360度）の円もある。
- * その他では、スラローム、ハードル、8の字、特別のもので、食器を置き、おやつを入

- れるところもある。おやつをとれないように蓋をしなければいけない。
- * コース内では犬は触れてはいけない（ニコニコマークがあるところはOK）。

参加条件

- * ラリーオビディエンスは家族全員のドッグスポーツである。
- * 参加は誰でもできるが、ケンカをしない犬、服従が出来る犬。
- * 参加できるのは、全犬種（交雑犬も含む）、8歳以上のシニアクラスもある。
- * 指導手は複数の犬を出すのは可能であるが1頭につき1枚の申し込みが必要。
- * 犬は同じ大会に2人の指導手が出陳できるが、2枚の申込書が必要である。
（例）親、娘が同じ犬で出す時は2枚申し込む。
- * 犬には、ワクチン、狂犬病等を接種し自己責任で出陳する。
- * 障害のある犬でも体調が良ければ出る事が出来る。
- * 体調が悪い時は審査員がその犬を中止にしなければならない。
- * 指導手に障がいがあっても参加することが出来る。
- * 車イス（手動・自動）などで参加できる。
- * その指導手は、障がいの状態を申告しなければならない。
- * 目で見える犬の病気（下痢、嘔吐、足をひこずっているなど）の時は参加出来ない。
- * 発情犬が参加するには、別のリンク又は最後に出る事。
- * 妊娠犬、病気やケガをしている犬は参加できない。
- * 他の犬や人の安全を脅かす攻撃的な犬は参加出来ない。
- * スパイク、胴輪、口輪等は禁止（シニアクラスの胴輪はOK）。
- * チョークチェーンは締まらないようにする。
- * ぶら下がっている名札等（狂犬病接種証明札等）はそのままでも大丈夫、ただし、服は禁止（シニアクラスの服はOK）。
- * リードについては金属のリードや伸びるリードは禁止。

基本のルール

- * ラリーオビディエンスは、犬は原則左側であること。
- * 障害のある犬は右側でも構わないが事前に申込用紙に書いておくこと。
- * 歩いているときに、左側から右側に移動は出来ない。
- * 指導手は、犬を自然に扱うこと。
- * 命令は声符、指符、体符、同時なら使ってもよい。
- * 不自然な動きは審査員から注意され2回目以降は失格となる。
- * 命令は繰り返し（同時以外も）はそのつど減点となる。
- * ショックもダメで、その行為によって減点や失格となる。
- * 紐の持ち方は、片手でも両手でもOK。

- * 紐を競技中に持ち変えるのもOK。
- * 紐を張った状態や紐を落とすのは減点となる。
- * 犬は、リード付きでコースに入ること。
- * その表示プレートに複数あった場合は総合的に計算される。
- * 表示プレートから表示プレートの間は3 m以上の距離が必要。
- * 360度は表示プレートの左側で表示プレートラインから後ろ120 cm内。
- * 方向転換(90°、180度、270°)は表示プレートの前120 cmの正方形内。
- * 同じクラス内で点が高い方が上。
- * 同点の場合、時間が早い方が上。
- * 全部同じなら同着になる。
- * 全部同じなら同着になり、同着の場合、大会担当者の希望があればやりなおせる。

スタートに関して

- * 審査員の指示でスタートする。
- * チームのどちらか早いほうの足(犬は前足)がスタートの線を越えた時からタイムを計る。
- * スタートする前は停座、伏臥、立止どちらでもよい。
- * スタートの時は常歩で歩くこと。

ゴールに関して

- * チームのどちらか遅いほうの足(犬は後足)がゴールの線を越えるとゴールとする。
- * ゴールを越してタイムが止まった後は褒めてもよい。

コースについて

- * リンクに入る前に首輪のチェック。
- * 審査員はコースによって時間を伸ばすことも出来る。
- * 指定時間を上回った人はタイムオーバーとなる。
- * 障害のある人は、ハンデをつけることが出来る。
- * コースのコピーを貼り付ける。(最低2枚)
- * 受付の時に目録と一緒に渡すこともある。
- * ゼッケンは見える様に付けること。

コースの検分について

- * 競技が始まる前に犬なしで10分間。
- * 検分中に審査員に質問が出来る。
- * 子供の場合、親と一緒にしてもよい。

- * 障害者の人は、審査員の判断でヘルパーと一緒にしてもよい。
- * 参加者が20人以上の場合分けてもよい。

点数の付け方

- * 審査員が見ながら言って、スチュワードが減点を書きとめる。
- * 最低の減点は1点。
- * 減点はコース内のどこでも引ける。
- * 脚側行進は、前後、左、30cm内なら減点なし。
- * 脚側停座も少し斜めでも減点なし。
- * 合格するためには、決められた時間内で最低70点いる。
- * 多少吠えても良いが、吠えすぎている犬は減点、最低は1点。
- * 確実じゃなくても、犬と人のコミュニケーションの方が重要で審査される。
- * 出来なかった場合は、1回だけやり直しができるが、5点引かれる。
- * やり直すと1回目の点数は消える。
- * ショックを入れるのも減点、その時は、程度により減点と注意（イエローカード）を受ける。
- * 1課目の最高の減点は10点。

共通の減点

－1ポイント

- ・紐がはっている（その都度）
- ・命令の出し直し（その都度）
- ・パネルの規定範囲外に足が出る

－3ポイント

- ・食器のにおいをかぐ
- ・コーンやプレートにぶつかるか、倒す
- ・人と犬が別々に入る（スラローム・らせん）
- ・紐を落とす
- ・エサを落とす

－5ポイント

- ・課目のやり直し（やり直しが出来ない科目もある）
- ・課目の一部をとばす（ぬける）
- ・違うところでスピードを変える
- ・逸走で－5（3回まで呼べる）
- ・飛越障害の板にあたる
- ・ハードルを落とす

- ・地面にバーを置き飛ばせることも出来る（ただし－５点）
 - ・飛越障害・バードルを反対から越す
- －１０ポイント
- ・課目をとばす
 - ・やり直しをしても出来なかった時
 - ・課目の説明からかなり離れているやり方

失格

- * ほぼいつも紐がはっている。
- * 犬がリンクから出る。
- * 犬が逸走、３回呼んでも戻ってこない。
- * リンクの中で排便、排尿。
- * ２回のイエローカード。
- * 指導手が作業中犬をさわる。
- * 犬がエサの容器をかんだり、倒したりする。
- * 許されていない時に犬にエサをやったり、触ったりする。
- * タイムオーバー。
- * 指導手が犬に体罰、強いショック、きつい言い方をしたら失格。
- * 失格になると、審査員が良くわかるように知らせる。
- * チームに残っている点数が全部なくなると、審査員はすぐに中止できる。
- * 攻撃的な犬は、審査員が大会の担当者に言って、大会会場から退場すると言える。
- * 犬に体罰をしている人を見つけたら競技担当者等も失格にできる。

ビギナークラス

１５～１８個＋スタート、ゴールの表示プレートがある。

競技標準タイムは原則４分。

紐付き、紐なしを指導手が決めることができる。

ニコニコマークがあれば、触って褒める、おやつを与えることができる。

クラス１

１８～２０個＋スタート、ゴールの表示プレートがある。

競技標準タイムは原則４分。

紐付き、紐なしを指導手が決めることができる。

ニコニコマークがあれば、触って褒める、おやつを与えることができる。